

[第4号議案]

4-1. 2023 年度事業計画書

1. 概況
2. 会員数について
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業1：一般社団法人としての運営
5. 実施事業2：DEIM
6. 実施事業3：国際・学会連携
7. 実施事業4：最強データベース講義
8. 実施事業5：データ作法（セミナー等）
9. 実施事業6：学生企画
10. 実施事業7：産学連携推進
11. 実施事業8：情報システム
12. 実施事業9：広報
13. 実施事業10：論文誌編集
14. 実施事業11：表彰
15. 実施事業12：ダイバーシティ推進

2023 年度事業計画書

1. 概況

当法人は、前身である任意団体日本データベース学会の事業を切れ目なく引き継ぐと共に、定款第3条に定める「データ、データベースならびにデータ高度応用・システムを主軸とした科学・技術の振興と人材の育成を図り、国内外のデータベース関連学術団体と連携しつつ、フットワーク軽く、産学連携、国際的協調、新領域開拓を先導し、学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与すること」を目的として活動を進める。

2023 年度は、一般社団法人日本データベース学会としての事業を行う 3 年目となる。2021 年度には各種規程を制定し、一般社団法人としての活動を開始した。2022 年度には役員を改選し会長が交代した。それに伴い、委員会構成を整理し、新しい体制で学会活動を実施した。2023 年度は、より良い活動を目指して必要な制度改正を行い、本会の目的にそって定款第4条第1項に定める事業を滞りなく行っていく。

具体的には、下記に示す重点活動項目の活動を通じて学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与する。

2. 会員数について

2021 年度の定時総会までに、前身である任意団体日本データベース学会の全会員に対し移行意志の確認を進め、移行意志を確認できた者を定時総会が開催された時点での会員とした。その後、正会員、学生会員、維持会員ともに順調に増加し、かつ、2021 年度に開催された DEIM2022 の参加者は DBSJ 会員となることのできる特典を享受できるようにしたことにより、2022 年度の定時総会の時点では、正会員 822 名と大幅に会員が増加した。

| | 2021 年度総会 | 2022 年度総会 | 2023 年 3 月 24 日 |
|------|-----------|-----------|-----------------|
| 正会員 | 484 名 | 822 名 | 850 名 |
| 学生会員 | 74 名 | 503 名 | 561 名 |
| 維持会員 | 21 社 | 26 社 | 27 社 |

今後も DEIM 参加者が DBSJ 会員となることのできる特典を継続するとともに、セミナーやフォーラムの機会を通じて、会員増加に努めていく。

3. 会議等に関する事項

下記の会議を計画する。遠隔会議システム等を利用し効率的な運用に努める。

3.1 2023 年度 定時総会

2023 年 6 月 16 日(金)に開催する。

3.2 理事会および各種委員会

理事会および各種委員会はオンライン開催を基本とするが、必要に応じてリアル会場を交えたハイブリッド開催を行う。

理事会は年度内に 6 回以上開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。

各種委員会は必要に応じて開催し、諸活動における諸事項を審議する。

4. 実施事業 1：一般社団法人としての運営（定款第 4 条第 1 項 8 号）

担当：総務委員会・財務委員会

総務委員会および財務委員会は、一般社団法人日本データベース学会の運営を円滑に進めることを目的に活動している。日常業務を効率よく推進すると同時に、よりよくするために継続的に改善している。

活動概要では、今年度の改善項目を挙げている。

【活動概要】

4.1 会員・会費制度改正

昨年度検討してきた会員・会費制度の以下の改正を実施する。

- 正会員を第一種と第二種に分け、年会費を支払う第一種正会員が選挙権・被選挙権をもつように定款・会員規程を改訂する。
- DEIM 参加者が第一種正会員を継続しやすい制度を整える。
- 高校生以下の学生が会員になることができるようにする。

高校生以下の会員の具体的な活動については WG により検討する。

4.2 委員会組織の継続的見直し

定款第4条に示す本会が推進すべき事業を円滑に進めるため、委員会構成を随時見直し、期中であっても柔軟に対応できるよう、必要に応じて委員会構成を変更していく。その対応をするための予算を計上する。

4.3 事務局機能の強化

事務局機能を強化するため、事務局業務の一部を業務委託する。

4.4 理事交代方法改善の検討

来年度の役員選挙に向けて、役員候補者を検討する際に、理事交代の方法を改善することで実施事業の継続性担保を検討する。

また、連携組織（DBS、DE、SIGMOD-J）の組織長が理事以外の人になった場合、あるいは、企業の理事が企業を退職した場合の対応についても検討する。

4.5 一般会計と特別会計の見直し

任意団体の時代から、毎年の定常的な活動については、一般会計の収支とし、国際会議関係の収支は特別会計（国際会議基金）を、システム開発など一時的に発生する支出は特別会計（事業積立金）としてきたが、一般社団法人となって、一つの口座で、特別な用途の準備金、積立金として扱っている。「特別会計」「基金」という用語は一般社団法人の会計上特別な意味を持つので、単一会計の中での扱いであることを誤解なく伝えるために用語を変更する。また、これまで一部適合していない部分があったので、2023年度予算ではそれを是正する。

4.6 消費税課税業者への移行

一般社団法人日本データベース学会は、これまで、消費税課税免税業者（2期前の消費税課税売り上げの合計が1000万円以下）だったが、2023年度より2期前の2021年度の課税売り上げが1000万円超となったため、消費税課税業者となる。また、2023年度10月1日より消費税のインボイス制度が施行されるのにもない、本学会は、インボイス制度適用を申請し、10月1日以後は、インボイス適用団体として運用する。

4.7 本会活動の継続的検討

一般社団法人日本データベース学会として、本会の活動全体を定款第4条第1項の各号の内容にそって、継続的に見直しを進めていく。

5. 実施事業2：DEIM（定款第4第1項1号）

担当：イベント委員会

本事業の目的は、DEIM（データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム）をDBコミュニティ最大の研究発表、交流の場として、DBコミュニティの活性化及び拡大化のための中核をなすイベントとすることである。

【活動概要】

2023年度に開催するDEIM2024は、DEIM2023の形態を引き継ぎ、口頭発表はオンラインにて、その後ポスター発表及びチュートリアルは対面（現地）にて行う直列型ハイブリッドにて開催し、コミュニティの活性化をはかる。また、対面にて参加者のより深い交流を目的とし、「対話の広場」を作るための方法の一つであるOpen Space Technology（OST）を用いてネットワーキングセッションを行う。なお、日程は2024年2月28日～3月6日の間のいずれかを予定し、DEIM参加者がDBSJ会員を1年間継続できる特典を継承する。また例年通り、DEIM2024開催期間内にDBSJアワーを開催する。

6. 実施事業3：国際・学会連携（定款第4第1項1号）

担当：国際連携・学会連携委員会

本事業の目的は、DBコミュニティのメンバー間の情報交換・情報共有を促進するため、様々な形態のイベントを実施することである。国際連携では、日本と韓国、中国間のDBコミュニティの連携を深めることを目的とする。学会連携ではDBSJと各学会のDB系研究会が連携することを目的とする。

【活動概要】

(1) ソーシャルコンピューティングシンポジウム（SoC）

DBSJの研究分野の一つとして、ソーシャルメディアを対象とした研究が多数ある。このソーシャルメディアを対象とした研究交流の場としてSoCを開催する。

2023年度のSoC2023は社会状況を考慮しながら、ハイブリッド開催にて2日間の開催を予定する。さらに招待講演を2件程度行い、DBSJ総会と同時開催を行う

(2) SIGMOD-J

SIGMOD-JはACM SIGMODの日本支部であるが、DBSJとの一体運営を行っている。SIGMOD-Jの目的は、海外のトップConferenceに若手研究者を派遣（もし

くはオンライン参加)し、そのトピックを DBSJ 会員に対して報告を行うことにより、DBSJ 会員の若手研究者の育成及び DBSJ 会員の最新研究事情の理解である。

2023 年度は 3 回の開催 (ICDEorWWW、SIGMOD、VLDB) を予定している。今年度は幹事団の交代の年である。

(3) Web とデータベースに関するフォーラム (WebDB Forum)

WebDBForum は 2022 年度より WebDB 夏のワークショップとして名称変更とともに開催形態を DBS/DE/IFAT 合同研究会形式に変更した会議である。

2023 年度より DBSJ が協賛し、9 月にハイブリッドで開催する予定である。

(4) Korea-Japan (Japan-Korea) Database Workshop (KJDB)

韓国 DB コミュニティと日本 DB コミュニティとの交流を目的とし、毎年日韓交互にオーガナイザーとなり秋に開催している会議である。

2023 年度は日本がオーガナイザーとなり秋に日本現地開催を予定している。なお、2023 年度より KJDB の Chair は吉川正俊先生である。

(5) 中国

2018 年 CCF TCDB (中国計算機学会データベース专业委员会) と MOU を締結し、連携を強めている、コロナ禍のため連携ワークショップを開催できなかったが、2023 年度はオンラインでのワークショップを開催する予定である。

7. 実施事業 4 : 最強データベース講義 (定款第 4 条第 1 項 1 号および 7 号)

担当 : DBSJ 講義委員会

本事業の目的は、DB 関連分野の各項目について、その道の第一人者ならではの「面白く」「わかりやすい」講義コンテンツを提供し、大学の枠を超えた最強のデータベース講義コンテンツライブラリを構築する事である。

【活動概要】

これまでの本事業の経験および DB シラバス関連調査事業の結果を踏まえ下記を実施。

① 講義コンテンツの作成と配信

(a)最強データベース講義 : 大学院生, エンジニア, 研究者を対象とした講義

(b)最強データベース講義ベーシック : 初学者 (学部生) を対象とした講義

(c)最強データベース教材：教員や企業での教育担当者を対象とした講義

- ② 講義コンテンツ活用に向けた広報や調査
- ③ タグ付けや講義間の関係などの整備と公開
- ④ コンテンツを利用した勉強会等派生イベント、他の活動(DEIM等)への接続性の検討

8. 実施事業5：データ作法（セミナー等）（定款第4第1項1号及び5号）

担当：セミナー委員会

本事業の目的は、セミナーを通じて、研究者や技術者がデータを利活用する際に必要となる法的な課題や倫理的な課題を熟知し、法的に問題とならないデータを利活用した研究開発の推進を支援することである。

【活動概要】

「私達は法に準拠してデータをどうやって集めてどのように使えばよいのか？」という研究者や技術者の疑問を解消するためのセミナーを2019年度から著作権法や個人情報保護法、AIや医学系研究の倫理等に関する課題などを対象として開催してきた。このような法律に関わる課題に取り組むため、法律の専門家による法的な話題の講演に加えて、企業などからの実践的な課題に対する講演、さらには参加者を交えた深掘りの議論するためのパネルディスカッションで構成されるセミナーを開催しており、2023年度もオンラインで複数回開催する予定である。

9. 実施事業6：学生企画（定款第4第1項3号）

担当：企画委員会

本事業の目的は、本学会に関わる学生の成長を促すことを第一義とし、学生自身が活躍できる機会を提供するものである。学生自身が関心を寄せるトピックを中心に、学生が主体的かつ能動的にイベント等の企画ならびに運営ができるよう、DBSJとして支援する。

【活動概要】

- (1) イベント・プログラムの企画～設計の支援

学生自身とのプレストを通じて、学生が求めている「場」を明らかにし、イベント等に仕立てるまでの伴走をする。イベントはオンラインに限らず、オンサイト開催も視野に

入れて検討をする。

企画の工程やイベントそのものを通じて、DBSJ に対する学生からの要望や意見を把握し、学生自身がより学会を有効活用できるよう DBSJ 自体の update を図る。結果としてより多くの学生に会員となって頂くことにも繋げていく。

(2) イベント・プログラムの運営支援

実際に設計されたイベントの開催において側方支援を行う。必要に応じて予算措置を講じる（会場手配や謝金等）

1 0. 実施事業 7：産学連携推進（定款第 4 第 1 項 3 号）

担当：産学連携委員会

本事業の目的は、アカデミアとインダストリアルの間、さらにはインダストリアルとインダストリアルの間における技術的な情報の共有、人的な交流を促進することで、産業全体の発展を目指すことにある。本年度も引き続きインダストリアルからプロダクトやデータ、あるいはアカデミアにおける研究テーマになりうるような課題を提供し、それらを活用頂くためのプログラムやイベントを開催、それらの場を通じた交流を図る。

【活動概要】

(1) プロダクト提供型アカデミック支援プログラム

下記プロダクト活用を通じた研究を支援すると共に、研究を通じて人的交流も図る。

・東芝デジタルソリューションズ：GridDB

(2) データ提供型アカデミック支援プログラム（IDR ユーザフォーラム）

DBSJ 維持会員企業ならびに国立情報学研究所 情報学研究データリポジトリ（以下、IDR）に参画している企業より希望者に対しデータを提供し、実データを使った研究を支援する。本プログラムの参加者は、研究テーマを自由に設定し、例年秋季に開催される IDR ユーザフォーラムにて成果を報告する。また同フォーラムにおける優秀な発表に対して DBSJ 特別賞を授与、副賞として同年度の DEIM に招待、口頭発表の機会も提供する。

(3) 産学マッチング（企業課題×研究テーマ）ならびに産産交流

学会は企業同士がフラットに交流できる有用な場であると考え、各社が抱えている課題感や技術知見の共有、人的交流を図るようなイベントを DBSJ として企画する。

またインダストリアル側が抱えている様々なビジネス課題やタスクは、アカデミア側から見ると良い研究テーマになりうる可能性を秘めている。それらインダストリアル側のニーズと、一方で研究テーマを求めているアカデミア側のニーズをマッチングする動きが、DBSJ として求められていると考える。お互いのニーズの可視化や交流イベント等を通じて、マッチングを実現する。

1 1. 実施事業 8 : 情報システム (定款第 4 第 1 項 6 号)

担当：情報システム委員会

本事業の目的は、会員データベースシステム、会員メーリングリスト dbjapan 等の情報システムに加えて、本会ホームページ、本会 Facebook などの電子広報用のシステムやサービスの安定運用と維持管理を行い、本会の運営をサポートすることである。

【活動概要】

2023 年度は会員データベースの第二期のシステム改修を行い、より安定的な運用をはかる。

- (1) 会員システムの第二期改修
- (2) Web・会員 DB の運用・維持

1 2. 実施事業 9 : 広報 (定款第 4 第 1 項 2 号)

担当：広報委員会

本事業の目的は、国内外の DB 関連技術の研究動向および DB コミュニティの活動動向を電子的に広報することである。

【活動概要】

- (1) News Letter の刊行
 - (1) 発行巻 8 号 : Vol. 16、No. 1~8
 - (2) 掲載記事計画：
 - ・定期(隔月)6 号 : 国際会議参加報告および会議開催報告など
 - ・企画① : DBSJ 各賞 受賞者の声
 - ・企画② : 若手研究者の声など
 - (3) 本会 Web ページにおいて News Letter のマルチメディア化、また、これまでメールに依存していた広報を、多くの世代に対して対応するため、複数の SNS を利用

した手段へ拡大していく。特に、若い人向けには LINE の活用を進める。

- (2) 最強データベース講義のポータルページの作成

1 3. 実施事業 1 0 : 論文誌編集 (定款第 4 第 1 項 2 号)

担当：論文誌編集委員会

本事業の目的は、論文誌の発行を通じて、データベース、メディアコンテンツ、情報マネジメント、ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興を図り、もって学術、文化、ならびに産業の発展に寄与するという本学会の目的に貢献することである。

【活動概要】

日本データベース学会論文誌 (和文・英文) および論文誌「データドリブンスタディーズ」を発行する。

- (1) 日本データベース学会論文誌 (和文・英文) の発行
- (2) 論文誌「データドリブンスタディーズ」の発行
- (3) 論文誌に関する課題 (投稿数増加、データアーカイブ) について検討

1 4. 実施事業 1 1 : 表彰 (定款第 4 第 1 項 8 号)

担当：表彰委員会

本事業では、功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。

【活動概要】

2023 年度表彰として、例年通り功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。規程や賞金額の見直しなどについて議論する。

1 5. 実施事業 1 2 : ダイバーシティ推進 (定款第 4 第 1 項 4 号及び 8 号)

担当：ハラスメント・ダイバーシティ推進委員会

本事業の目的は、DBSJ 内のダイバーシティ & インクルージョンを推進し、ハラスメント

を防止するための活動を通して、DBSJ に関わる全ての人の基本的人権および尊厳を守り、各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることである。

【活動概要】

2023 年度は、ダイバーシティ推進のためのパネルディスカッションを通じた啓蒙活動、さらに DEIM を中心とした学会におけるハラスメント防止などの活動を実施する。

(1) ダイバーシティ推進事業（男女共同参画学協会連絡会への対応を含む）

① 主催イベント：SoC2023 等でのパネルディスカッション（予定）

② 後援予定：IEEE WIE 2023 他

(2) ハラスメント防止委員会

ハラスメント通報のルールに関する内規を作成

ダイバーシティ・ハラスメントに対する考え方を宣言としてまとめて Web で公表

DEIM などでのハラスメント防止活動